

想い | つくる | 伝える

2020 Eye's  
新潟ここだけ物語

# 大金山の思い出

かんばろう ● ニッポン!

Take Free  
ご自由にお持ちください

江戸時代の一時期、国内最大級を誇った高根金山の発展とともに拡大した村上市の高根集落。山間の盆地と背後に迫る斜面に延びる集落の区割りは、江戸期とほぼ変わらず、蛇行する細い坂道が家々をつなぎ、見通しがきかない謎めいた村落空間が好奇心を誘う。(集落の東端から北西方向を望む)



目の前にある幸せを感じて

[長岡市] 文／本望典子

にいがたの水辺 vol.6



森の中は、別世界のように涼しくて静かだ。時おり聞こえる野鳥の鳴き声が、より清涼感を高めてくれる。ここを訪れたのは10年ぶりくらいだろうか。昔、母と湧水を汲みに来たことがある。清水が湧き出る場所に向かってみると、階段つきの高台に祠があった。調べてみると、この高台は屋敷田と言うそうで、300年以上も昔の祖先が水源の養成に涙ぐましい工夫と努力を重ねてきたという記述が残っていた。その後も、飲用水として、また灌漑用水など命の水として地域の人々の生活を支えてきたのだ。

公園全体としては、本来ならばレストランやホール、キャンプ場などで賑わいをみせているところだろうが、今年はとどハウス(売店)のみの営業となっている。時代の流れには逆らえない。これは仕方のないことだろうと思うと同時に「水に流す」「水に慣れる」など、水を使った慣用句がいくつも思い浮かんだ。水と人々の暮らしと密接であることはもちろん、また

清らかな水に恵まれた日本人独特の感性が相まって多くの水フレーズが誕生したのではないかと考える。

鯉が優雅に泳ぐ中央の池のそばで、感じの良いご夫婦と

お会いした。「どこからいらしたの?」「この辺は以前、地元野菜を多く売っていてね」「向こう側で売ってたアイスがおいしかったんだ」「鯉の数は減ったかな」と、いろいろなお話を聞かせてもらった。

こうして懐かしく訪れる人がいる限り、きっとまた水辺の賑わいはよみがえる。公園だけではない、今は地球全体がひと休みする時期なのだと思う。

ご夫婦と別れてまたぼつんとひとりになった。まさしく「水を打ったよう」に静かだ。近くの立て看板には家族みんなの笑顔の絵画とともに「今をよろこぶ」という言葉が記されていた。清らかな水がある。それだけで幸せなはずだ。今目の前にあるものに感謝しよう。「頭から水を浴びた」ような出来事に遭遇した直後の私たつたが、美しい湧水のおかげで大事なことを思い出させてもらった。豊かな自然による癒しの力は絶大である。

とど  
杜々の森 名水公園



**概要** / 長岡市西中野俣(柄尾地域)にある公園。「杜々の森湧水」として昭和60年全国名水百選のひとつに選定された豊富な湧水を利用し、親水や周辺の豊かな自然環境とのふれあいを目指して旧柄尾市が整備した。古来より神域として保護され、新潟県の自然環境保全特別地区、鳥獣保護区、特別環境保全林に指定されている。

## 編集後記

高根という集落を知ったのは、ちょうど一年前。金山の歴史に詳しい研究家の講演会でのことである。戦国時代、武将たちが武器入手するために列島各地で金山の開発ブームが興り、江戸時代になると地域振興の起爆剤としての役割を担った、熱の籠った話が続いた後、その実例として特異なランドスケープを持つ高根に話が及んだ。それ以来、一度は自分の眼で確かめたいと思った。そして初めて見た高根の印象は強烈だった。山の中のかなり奥まった場所なのに、民家が密集し、エネルギー的な気配が辺りを包んでいた。これは只者ではない!という直感どおり、高根には大金山の記憶だけでなく古代から現代までの歴史を引き寄せるフックがたくさん潜んでいた。上杉謙信、豊臣秀吉、さらに遡って平安時代の後白河天皇まで身近に感じることができた。もともと阿賀野川以北の地域は、古代から莊園に埋め尽くされていた地域で、堆積している時間の厚みが違ったのだ。世界中で先行きが見通せない今、長く続いている集落の幸せそうな現実に、微かな希望を見いだせた。(渋川)

## 発行所

まごころ印刷の  
株式会社 タカヨシ フュード 編集室

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

- 本社・工場 / 〒950-0141 新潟県新潟市江南区亀田工業団地1丁目3-21 TEL (025) 381-2000 FAX (025) 381-4800
- 東京支社 / 〒113-0034 東京都文京区湯島3丁目24-11 湯島北東ビル2階 TEL (03) 3837-4488 FAX (03) 3837-4884
- 仙台営業所 / 〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉5丁目347上杉オカダビル501号室 TEL (022) 266-1711 FAX (022) 266-1712
- 名古屋営業所 / 〒465-0093 愛知県名古屋市名東区一社1丁目79 第六名昭ビル6A TEL (052) 753-8080 FAX (052) 753-8081
- オフィシャルサイト / <http://www.takayoshi.co.jp>

「ふうど」はここに置いてあります

- 【新潟市】<中央区>ANAクラウンプラザホテル新潟、駅前オフィスNII GATA、NSG学びステーション、NST、NPO法人 Made in 越後、上古町商店街、旧小澤家住宅、県立自然科学館、砂丘館、佐藤商会、佐渡汽船ターミナル、田中屋本店みなと工房、朱鷺メッセ、新潟NPO協会、新潟絵屋、新潟 加島屋本店、新潟県政記念館、新潟県庁広報展示室、新潟県民会館、新潟県立図書館、新潟国際情報大学、新潟中央キャンパス、新潟市民活動支援センター、新潟市生涯学習センター、新潟市食育・花育センター、新潟市中央図書館、新潟商工会議所、新潟市歴史博物館、新潟ユニゾンプラザ、ビアBandai、ホテルタイアーハ、ホテル日航新潟、リュー福島湯、新潟空港、鴻川公民館、<江南区>桑名病院、パティスリークフェオルレアン、<西区>新潟ふるさと村、新潟大学附属図書館、佐潟荘、<南区>新潟市農業活性化研究センター、<北区>新潟せんべい王国、ピューリー福島湯、新潟空港、鴻川公民館、<江南区>介護老人保健施設亀田園、新潟市立亀田図書館、<西蒲区>カーブド・ドマース・シオ、<秋葉区>カフェギラリーやまぼし、川内自動車、新津鉄道資料館
  - 【新潟市】加治地区公民館、紫雲寺地区公民館、新發田市生涯学習センター、新發田市市民文化会館、新發田市立圖書館、豊浦地区公民館、【聖籠町】聖籠観音の湯 ざぶーん【村上市】イヨボヤ会館、村上市観光協会
  - 【長岡市】新潟県立歴史博物館、長岡市立科学博物館、長岡大学、長岡市立中央図書館、長岡西病院、やまこじ復興交流館おたらる【燕市】分水ビターサービスセンター
  - 【出雲崎町】越後出雲崎天領の里、【湯沢町】雪国觀光舎 越後湯沢温泉【南魚沼市】桜宛
  - 【佐渡市】SADO伝統文化と環境植物の専門学校、ホテル大佐渡
  - 【東京都】<渋谷区>表参道・新潟館ネスバズ、<中央区>プリンスにいがた、<千代田区>新潟市東京事務所
- 本誌に掲載されている写真等の無断転載はご遠慮ください。

エコプレス  
バインダー

この印刷物は環境にやさしい  
木ぬか油を使用したライスインクで  
印刷しています。



その先は朝日山地の地表を覆う森林が広がり、山のずっとずっと奥には、昔、国内最大級を誇った越後黄金山の主力をなす高根金山の遺構がある。戦国武将の上杉謙信が開発に力を注ぎ、佐渡金銀山よりひと足早く江戸初期にピークを迎えた大きな金山である。

昭和の佇まいを残す高根で、もうひとつの大金山の思い出を探してみた。

# もうひとつの大金山

想い 戦国武将の夢の跡

## 四二〇年まえの地域力

に一触即発の緊張状態が続いた。そのため軍事的に重要な金山に関する情報は厳重に秘匿する必要があり、当時を知る文献も乏しい。しかし大金山だった事實を裏付ける決定的な史料は現存する。太閤検地の際、上杉景勝が秀吉に提出した慶長二年（一五九七）瀬波郡絵図と、この年に全国の領主が納めた運上金を記した慶長三年の伏見藏納目録である。絵図には高根金山と高根村の場所が記され、目録には全国からの運上金の約三割が越後黄金山から産出され、佐渡黄金山と合わせると、全国の運上金の五割六分を占めている。いずれも上杉謙信・景勝が開発に力を注いだ金山である。秀吉も目にしたであろう四〇年前の絵図と目録が、当時の県北地方の村々と生産力を明瞭に伝えており。

高根金山は砂金山で採掘しやすかったため、江戸初期にはほぼ掘り尽くされ、いつしかその存在は歴史の彼方に消えかけた。幕末から昭和にかけ、再採掘が試みられたが栄光の時は二度と訪れなかつた。それでも山塊をえぐられた山は、そこには遠い記憶は伝説として地元で語り継がれてきた。

高根金山は、高根川の源流付近にある鳴海山・駒ヶ岳・焼峰の三鉱からなる砂金山である。その主鉱が鳴海金山。標高七六三メートルの鳴海山の山腹は、金山空洞化されるほど掘りつくされている。現在、ゴールドパーク鳴海として、その一部がごく限られた期間だけ公開されている。が、いまだ全容は明らかにされていない。

高根金山を含む越後黄金山は、織田信長・豊臣秀吉などから越後の虎と恐れられた上杉謙信の隠し金山とされている。戦国時代の県北地方は、上杉と敵対する揚北（あがきた）衆という有力豪族がひしめき、常

ぬき掘りで至るところに大小の坑道が穿たれ、立坑の周りには何層もの掘り広げた面があり、ただただ凄いもんだなと思いました。五十年ほど前、中学校の歩き遠足で鳴海金山に行つた時には、まだ鉱石を運びだすトロッコの軌道があつたそうだ。

当時の金の輸送ルートを伝える伝説がある。高根の奥に標高六三四メートルの天蓋山がある。その峠を伝つて海に近い塩野町に通じる道があつた。峠の坂道には小さな茶店があり、金を運び出しこそが見える。そして、このおばあさんが必ず松明や蠟燭で合図したそ�わっている。そして、このおばあさんの真の姿は人を喰う鬼ばばあで、茶店があつたとされる一画だけ、なぜか未だに草も木も生えない。こうした山姥伝説は、異文化が接する境界や大切なものを秘匿する場所に、その地の守り役として全国各地に存在する。この伝説も、高根金山が上杉謙信の秘密の持ち駒だったことを示唆している。

1200年の沈黙の時を超えて、現代に蘇った高根金山の主鉱、鳴海金山の遺構。手掘りの跡と残されたままの荒々しい岩肌が、人間の欲望の深さを見せつける。昭和43年、旧朝日村が本格的な学術調査を行い、平成4年から3年がかりで坑内を整備し「ゴールドパーク鳴海」として公開されている。

## 天蓋の鬼ばばあ

に伝えている。

高根金山は砂金山で採掘しやすかったため、江戸初期にはほぼ掘り尽くされ、いつしかその存在は歴史の彼方に消えかけた。幕末から昭和にかけ、再採掘が試みられたが栄光の時は二度と訪れなかつた。それでも山塊をえぐられた山は、そこには遠い記憶は伝説として地元で語り継がれてきた。

昭和六十年代、鉱山遺跡を観光施設にするための測量調査に加わった、地元の鈴木信之さんは「坑内は想像以上に大規模なものでした。八月の一ヶ月間、現場近くの宿舎に泊まり込み、地中に潜り、昔の人たちの手作業の凄さをつぶさに見ることができました。坑内は、た



瀬波郡絵図(慶長2)・堀家文書から作図



お伽話に出てくるような温かい佇まいでの、いつも村びとの幸せを見守っている河内二柱神社。境内は杉の大木が多く、中央部に昨年の奉納相撲の土俵が擦り減ったまま残っていた。土俵は毎年新しいものに設え直すという。

ぬき掘りで至るところに大小の坑道が穿たれ、立坑の周りには何層もの掘り広げた面があり、ただただ凄いもんだなと思いました。五十年ほど前、中学校の歩き遠足で鳴海金山に行つた時には、まだ鉱石を運びだすトロッコの軌道があつたそうだ。

当時の金の輸送ルートを伝える伝説がある。高根の奥に標高六三四メートルの天蓋山がある。その峠を伝つて海に近い塩野町に通じる道があつた。峠の坂道には小さな茶店があり、金を運び出しこそが見える。そして、このおばあさんが必ず松明や蠟燭で合図したそ�わっている。そして、このおばあさんの真の姿は人を喰う鬼ばばあで、茶店があつたとされる一画だけ、なぜか未だに草も木も生えない。こうした山姥伝説は、異文化が接する境界や大切なものを秘匿する場所に、その地の守り役として全国各地に存在する。この伝説も、高根金山が上杉謙信の秘密の持ち駒だったことを示唆している。

高根集落に埋もれる大金山の思い出が、浮かび上がり、目の前に広がる山里の風景に奥行きが出てきた。はじめて訪れた時に感じた謎めいた気配は、そう突飛なものではなく、集落に堆積する時間の長さと金山を抱えた特異な歴史に起因していた。と、あれこれ考えながら車を走らせると、水田の向こうに鎮守の森を背にした石の鳥居が見えた。神社は緑に隠れて見えない。吸い込まれるように鳥居の前

に立つ。足元から聴こえる用水の音。顔を撫でる山の風。時折、響き渡る鳥の声。すっかり忘れていた自然の優しさに包まれ、思考が止まる。それでも手水舎の水音に導かれ社殿に向かう。すると神社の右手から恐ろしく巨大な杉が目に飛び込んできた。幹まわりは三抱えもあるだろうか、巨大な幹が社殿を圧しそうな勢いである。その後に小ぶりな杉が生え、幹の脚元は大杉と仲良く混じり合っている。樹齢八百年と言われる旧朝日村の天然記念物に指定された、河内二柱神社の大杉である。

神社は、もともと鉱山に近い相之俣元屋敷という集落で応保元年（一一六一）に創建されたと伝えられる。江戸中期に現在地に移転。後白河天皇の第三皇子雲上佐一郎の二子・太郎・次郎を祀っている。相之俣という名は、高根金山を発見した出羽国の住民、相之俣弥三郎に由来し、大同年間の発見以来、その子孫が代々受け継いできただとされる。

それにしても人里離れた山奥の金山で、どれくらいの人が働いたのだろう。堀直寄が村上領主だった時代に新しく沼金山が発見採掘され、元和六年（一六二〇）に、約二千五百人の鉱山技術者が働いていたという記録がある。大金山だった高根金山には、もっと大勢の人が働いていただろう。

# 令和のユートピア

一  
ぐ  
る  
力自然と人の共同作品

卷之三

高根は、村上市の中心部から北東へ、車で約二十分ほど行った山間の集落である。高根川沿いの居住域としては最上流に位置し、車道が整備されていなかつた昔は、行き止まりの辺鄙な村だった。にもかかわらず百六十戸ほどの民家が軒を寄せ、周辺地域で最多の人口を抱える集落である。高根金山が日本一大金山になる以前から、稻作を中心とする農業地域で、他に大豆、真綿、藁、繩、柿渋などを生産し年貢としていた。明治期から林業が加わり、時代の移り変わりに合わせた山の生業が現在も続いている。例えば建材用の木の伐採・運搬から、杉の大規模植林、紙の原料になるチップの供給、なめこの栽培のほか、昭和初期には炭焼きが盛んに行われ八十八軒の炭焼き職人がいたという。現在も天蓋山の山中に、炭焼き窯が点在し若手職人が炭を焼いている。大規模な林業の生産拠点がある

わけでもなく、一見して大自然とともににある平凡な暮らし方に見えるが、どこか時流に対し泰然と構えつつ、静かな活気も溢れている。行き止まりの村なのに明るい雰囲

気が特徴だ、という鈴木信之さんに、その訳を教えてもらう。「平成二十年に村上市と合併する前まで、高根のある朝日村は奈良県の十津川村に次ぐ全国で二番目に大きな村でした。そのなかでも高根の面積は最も広く、山の中にある水田地帯、杉の人工林、果樹園などのほかに、高根川の源流付近ではブナや広葉樹の原生林に覆われた森林地帯が広がっています。集落の総面積は約一万町歩。そのうちの約四割が国有林。残りの約六割が民有林で、高根集落の百十二件の家で共有しています。ですから、

「行う仕事や、祭りなどに積極的です」なるほど取材当初、村上市役所朝日支所の若い相馬平さんが「高根はみんな仲が良く、年配の人でも若い人の意見も受け入れる寛大なところが当集落の特徴です」と言っていた背景を納得。木を育て森を守る仕事は、五十年百年先を見越す息の長い仕事。目先の利益に拘ることもなく超然として時代の流れを見られるのかもしれない。広大な森林遺産は、長期的な視点を持つ気質も育ててきたのである。

ひまわり畠とそば食堂

ル離れた新潟市の東港の灯や新潟祭りの花火も遠望できるという。いまの季節は、朝日村の村花だった、ひまわりが大輪の笑顔を谷から吹き上げる透明な風で揺らしている。この大自然に黄色のインパクトをつけた大景観を創ったのは、地元有志でつくる高根フロンティアクラブである。鈴木さんが、総勢約四十人のクラブの代表を務めている。

「三十年ほど前、いわゆる団塊の世代の人たちが、集落の人口が減り自分たちが生まれ育った故郷が活気を失っていく様子を見て、何とかしようと立ち上がったことが始まりです。たまたま天蓋牧場の下に遊休地があり、そこにひまわりを植えることになりました。毎週日曜日の朝の四時に自分たちの重機を現場に持ち込み整地し、肥料を入れ二年がかりで整備。ひまわり畑が完成すると、大勢の人たちに見てもらうために広場で夏祭

山深い旧朝日村周辺は、地上の明かりが少なく、どこに行っても漆黒の空に星が瞬いている。

地元の人しかわからない山の奥の奥に開発された棚田群。平地では見られない高低差と個々の水田のつながり方は、システムティックな美しさがあった。

りを開催しました。これが大変評判がよく、現在まで毎年恒例で続いている。また、天蓋高原からの眺望は素晴らしいのですから、四季を通じて楽しめるようにしたかった八重櫻とマッチする菜の花、秋はそばの白い花を楽しめるようになりました。そうしたら、だんだんエスカレートし、植えたそばを収穫し、それをみんなに食べてもらえる食堂を作ろうということになり、廃校を活用し、「山のおいしさ学校食堂 I R O R I 」まで開業してしまいました」。調理やサー

ビスはクラブのスタッフがボランティアで行う。こうして大きな自然を味方につけた山の民たちの、壮大で贅沢な遊びがいまも続いている。

空中に浮かぶ棚用

がらの不定形な水田ではなく、均一に耕地整理された水田が階段状にどこまでも続いている。用水は山中から滲み出たばかりの清冽な沢の水。高い場所から引いてきた水を上の田んぼから順々に下ろしてくる。ただ上下の田んぼの高低差は非常に大きく、畦の法面が三・四メートルの広さに及ぶものがたくさんある。

この近代的な棚田は、昭和五十年代に七年がかりで整備された。棚田に行くには車一台がやっと通れる道しかない。そんな悪条件のなかで大規模な耕地整理を敢行し

た先人たちの米作りに賭けた執念と過酷な労働に堪える覚悟を決めた気概が偲ばれた。それでも作業の合間に見やる県境の山並みと、体を包み込む新鮮な空気のそよぎは、農民を励まし身体を癒すのに十分な力を備えていただろう。

水路の管理と、年三回におよぶ畦の草刈りは重労働で、高齢化が進み耕作ができなくなつた水田が出ると、山全体の水利ネットワークが分断されてしまうと鈴木さんは憂う。明るい鈴木さんが唯一表情を曇らせた一瞬だった。本当に大変なのである。



③⑤曲がりくねる坂道沿いに家々が軒を連ねる。

④集落の脇を流れ下る清流高根川。ダムがないため渓流釣りの人気スポット。

⑥山の生氣が匂ひたつ棚本 広太を自然景觀に 人心地を添えていた



「3密とは無縁、でもデジタル環境は整っています。雪さえなければ最高に住みやすい場所です」と話す鈴木信之さん。取材では、すっかりお世話になった。

